

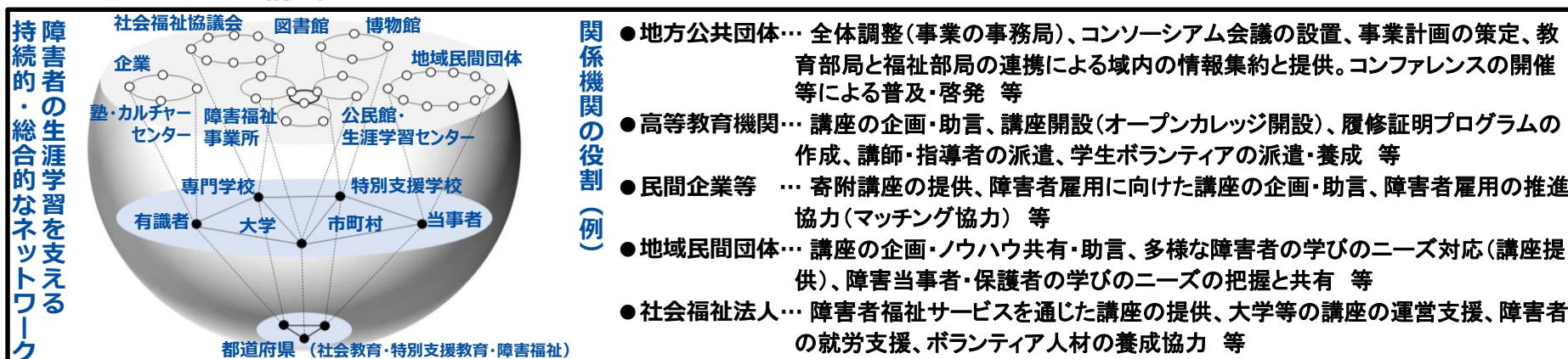


地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築

取組内容の概要

- ◆ 学校卒業後の障害者の学びの場を拡充するため、地方公共団体（主に都道府県）が教育部局と福祉部局の垣根を越えて中心となり、大学等の高等教育機関や社会福祉法人、地元の企業、NPO団体等が連携した、障害者の生涯学習のための「地域コンソーシアム」形成のモデル構築を行う。
- ◆ 参画する機関がそれぞれ得意とする役割を担うことで、地域全体として持続可能な障害者の生涯学習を推進する体制づくりをねらいとする。
- ◆ 社会教育施設や大学等の教育機関、社会福祉法人等が協力し、障害者が参加できる学びの場の提供や、大学等による履修証明制度の活用など、障害者の自立や就労も見据えた新たな学習プログラムの開発・実証等の取組を進める。
- ◆ 学びの場づくりの拡大や質の向上に資する人材育成の研修プログラムの開発・実証等を進める。
- ◆ 障害のあるなしに関わらず参加できる講座等の情報収集と提供を可能とする仕組みを構築するとともに、関係機関や障害者本人等が参加するコンファレンス等の開催を通じて、本事業の成果の普及・啓発を進める。

地域コンソーシアムの構成イメージ



期待される成果（アウトプット）

持続的・総合的な学びの支援の仕組みを構築する

- 関係機関に人的・金銭的な課題がある中で、学びの場を支える持続的な支援を実現する。
- 関係者の縦割りを超えたネットワーク構築に向けてコンソーシアムが自律的に運営される。

障害者が様々な学びの機会に参加できる

- 障害者が参加可能な学びの場が拡大し、学びの成果を示すことができるようになる。
- 学びの場に関する情報が収集・展開されることで、障害者の学びへの参加が促進される。

期待される成果（アウトカム）

- ◎ 各地域で障害のある人の社会参加と活躍を推進
- ◎ 各地域における支援人材の増加と障害への理解を増進
- ◎ 障害の有無にかかわらず生きやすい共生社会の実現へ